

# 海外子会社管理セミナーで

## 「OBMonitor」の活用事例が紹介される

■とき…平成29年7月25日(火)  
■ところ…東京中小企業投資育成

日本企業の海外進出が加速する中、海外子会社の財務管理のあり方や不正防止などの対応に親会社が苦慮するケースが増えている。そうした海外進出企業向けの「海外子会社管理セミナー」(主催…東京中小企業投資育成・

(株)TKC)が、TKC全国会海外展開支援研究会および中堅・大企業支援研究会の協力のもと開催された。当日は海外子会社における不正・誤謬防止のポイントや「OBMonitor」活用による財務管理事例などが紹介された。

### 不正・誤謬発生のお具体例を紹介

当セミナーには、東京中小企業投資育成の投資先を中心とした企業経営者、管理部門社員等約50名が参加。はじめに、TKC全国会海外展開支援研究会の松本

憲二代表幹事と、東京中小企業投資育成の田嶋幹也執行役員(都内担当)が挨拶をした。

最初の講義は(株)KPMG FASの林稔マネージングディレクター(公認会計士)による「海外子会社の不正・誤謬の予防・発見のポイント」。同社は企業に対しフィナンシャル・アドバイザリー業務を提供する大手監査法人系の事務所で、近年海外子会社の不正に関する相談が急増しているという。

そうした相談事例に基づき、林氏は海外でありがちな不正(不正支出・在庫横流し・キックバック・横領等)の発生状況や原因、あるいは不正・誤謬防止のための具体的取組事例について解説した。

「不正リス



林マネージングディレクター

ク管理の基本は日本でも海外でも同じです。それは①一人でもできる状態を作らないこと、②常に見られていると思わせること――の二つ。その上で、各国特有のリスクへの対応あるいは「マネジメント・ブック」の整備・活用などを検討しましょう」

### 「適時・正確」な数字の把握が基本

続いて、「海外子会社の財務管理の成功事例とポイント」をテーマにTKC全国会海外展開支援研究会・OBMonitor普及部会の温井徳子会員が講義を行った。

温井会員は、海外子会社の財務管理にあたっては、何より財務データを「適時に」「正確に」把握することが重要であると強調。そして「現地担当者の会計知識の不足」あるいは「現地会計

事務所が作成する財務諸表は英語と現地の言語が混在し

「ている」などありがちな課題に対しては、TKCが提供する「OBMonitor」の活用が一つの解決策になると説明した。「会計がしっかりしていれば、重複仕訳のチェックや売掛金残高の確認によって異常値を発見しやすくなり、財務面の内部牽制強化につながります」

参加者からは「事例に基づいた話なので理解しやすかった」「不正等の早期発見とルールの整備が重要だと分かった」「会計データを活用すれば効果的に管理ができることが分かった」などの感想が聞かれた。

(TKC出版 村井剛大)



温井会員

